



森下仁丹

報道関係各位

2014年2月13日

森下仁丹株式会社

靱町×森下仁丹 地域振興プロジェクト

ほうろう

新製作の町名珠瑯看板 15 枚を 創業者出生地・靱町に寄贈 靱中学校生徒選定の町内各所に順次設置予定

森下仁丹株式会社(本社:大阪市中心区/代表取締役社長:駒村純一)は、創業者 森下博(1869~1943)の生誕の地、広島県福山市の靱町と共同で行う地域振興プロジェクトの一環として、弊社商標「大礼服マーク」入りの町名珠瑯(ほうろう)看板 15 枚を新たに製作し、靱町に寄贈いたしました。寄贈した看板は、順次町内各所に設置される予定です。

《2014年2月11日(火・祝)に実施した、町名珠瑯看板贈呈式～設置の様子》



沼名前神社内、森下博像前にて贈呈式を実施

(左3名)靱中学校の生徒の皆さん
(右から2番目)靱町内会連絡協議会 会長
大瀨憲司(おおはまけんじ)様
(右)森下仁丹株式会社 代表取締役社長 駒村純一



町名珠瑯看板設置の様子

(左)森下仁丹株式会社 代表取締役社長 駒村純一
(右)福山市市長 羽田皓(はだあきら)様

靱町出身の森下博は、明治期より、「広告益世(広告物も世のため人のためになるべき)」の理念のもと、「大礼服マーク」入り町名珠瑯看板を日本各地に設置しました。現在も残る看板の数はごくわずかになりましたが、2010年より弊社は「古き良き日本の風景を残していきたい」という思いから、町名珠瑯看板の保全・復活プロジェクトに取り組んでおります。今回森下博の出生地・靱町からのご厚意によりコラボレーションが実現し、一枚一枚手作りで新たに製作した町名珠瑯看板を寄贈し、町内に設置いただけることとなりました。

また、今回寄贈する町名珠瑯看板の設置場所の選定は、福山市立 靱中学校の生徒さんたちが行いました。靱中学校ではこれまでも、地元学習の一環として森下博の靱町への取り組みを学ばれ、それを題材とした演劇発表を行うなど、積極的に森下博と弊社の歴史に触れていただいています。



設置予定の町名珠瑯看板(全15枚)

※画像をご入用の方は、お手数ですが h-nagao@kyodo-pr.co.jp (共同PR長尾)もしくは下記連絡先までご連絡頂ければ幸いです。

【リリースについてのお問合せ先】

森下仁丹株式会社 広報宣伝G 担当:磯部・中島 TEL:06-6761-1134 FAX:06-6761-8108
共同PR株式会社 第六業務局 担当:長尾・呉 TEL:03-3571-5236 FAX:03-3574-9364



森下仁丹 〒540-8566 大阪市中心区玉造一丁目2番40号 TEL:(06)6761-1134 FAX:(06)6761-8108

＜鞆町と森下博・森下仁丹とのつながり＞

森下博は鞆町・沼名前神社の宮司の家に生まれ、森下仁丹創業・仁丹発売後は、鞆町の観光網への資金援助や小学校の教育基金の創設、社寺の改修費の寄付など、地元・鞆町の発展に腐心しました。鞆町では森下博の取り組みに応え、沼名前神社に森下博の寿像を建立し、現在でも像は「仁丹さん」の愛称で親しまれています。そのほかにも、共催イベントを実施したり、学校教育の題材に森下博を取り上げるなどの活動を行っており、森下仁丹と鞆町は今後も協力関係を模索していきます。

■ 町名看板

創業者・森下博は、『広告益世(広告物も世のため人のためになるべき)』の活動の一環として、当時、町名の表示がなかった為、来訪者や郵便配達人が家を捜すのに苦労しているという人々の悩みに応え、明治43年頃から当社の商標(大礼服マーク)が入った町名看板を辻々に掲げ始めました。当初、大阪、東京、京都、名古屋といった都市から掲げられ、日本全国津々浦々にまで広がりました。その後、戦災により焼け残った街角では、昔ながらの町名看板を見ることができます。

■ 珙瑯看板

珙瑯看板は、明治時代末頃より製作が始まり、その後、大正時代から昭和初期にかけて生産され、その多くは、屋外看板として利用されたとされています。※

珙瑯は、鉄にミクロン単位に磨り潰したガラス質(アワガラス)の釉を800度の高熱で焼き付けて仕上げたもので、看板に着色する数だけ釉を高熱で焼き付け、乾燥・焼成を繰り返します。ガラス質の釉を焼き付けているので、光沢を帯びた仕上がりとなり、耐久性・耐候性が高い看板になります。

※(参考文献)日本ホーロー看板広告大図鑑 サミゾチカラ・コレクションの世界

■ 「京都町名珙瑯看板プロジェクト」について

100年もの間、京都の景観に溶け込んできた町名看板(木製看板を含む)を保全・復活させ、古き良き日本の時代を残していきたいという思いから、2010年8月に立ち上げました。「町名珙瑯看板」は、多く残存しているとされている京都市でも、社会情勢や生活様式の変化により、ここ数十年で約4割減少し、延べ750枚弱まで激減しているのが現状です。本プロジェクトでは、一枚一枚を手作りで製作した新たな珙瑯看板を、京都の地に復活させています。

■ 花村ホーロー工業株式会社

看板の製作を行ったのは、花村ホーロー工業株式会社(代表取締役 花村光夫氏)は、昭和26年創業、埼玉県吉川市にあるホーロー専門の製造会社です。現在、日本で珙瑯製広告看板のすべての形状および最大サイズまで一貫生産ができる唯一の会社です。また、現・代表取締役花村様のご尊父様の代では、当時の仁丹看板を製作したことがあるという経緯があります。

■ 有限会社八田看板 八田二代次(はったによつぐ)氏

今回新たに製作した珙瑯看板に文字入れを行ったのは、「京都町名珙瑯看板プロジェクト」と同じく、有限会社八田看板 代表取締役 八田二代次氏です。長年の看板等の製作経験により培われた手書きの技能は、文字の書体・大きさ等において美観性と品性を保持し、業界内でも高く評価されています。また、手書きによる製作は、習得に長年の訓練・経験が必要となるため、業界内においても年々職人は少なくなっており、現在では貴重な存在となっています。2012年には、「京都府の現代の名工(京都府優秀技能者表彰受賞者)」にも選出されました。